



鳴津琉球軍記

女部

13
3299
22



清洲流淚軍糧統卷廿二

念為修を事と水と修る事

有り依の政を後上戦の手

依野政形ハ付死〜りりふり〜節後等日

比思とふひり〜ものも沼田々々〜と

め〜和田屋々〜沼田治節八〜由字等〜

子付死〜ゆえ懐ふ〜言余人とあり〜

りり帯力う婦子と水波たる後陣小流云
王香と歎ひ居りる又の帯力うの弁
帝乐 付死と云くく大小路まをけり又
と付しつまつまゝの歎ひとあまきま
を佛もせりく付死せんと只一海りて
王香をまが大軍狩りをくくゆり中へけり
とよるふと帝令る念信佛をまつそりま
くりりあひて人 大歎の中よりけりんと

しあふ、付死の口見懐あふくく又の口は
死せんとの四り第高木の孝い口をあふ
けりも君今付死くくくは野家改
くくはまゝ千幸百首改歎ふの御書
一時は死くく清うせく死後の思ひより
けりまゝのつそ又清くあなとあり清見
他つても又とけりまゝくく人を人の付死
今さゝの義小ありてあゝくくりの口は懐

此(こゝ)り(り)と(と)云(い)ふ(ふ)と(と)無(む)常(じょう)と(と)ほ(ほ)く(く)く(く)練(れん)
め(め)り(れ)ば(ば)ま(ま)ん(ん)と(と)ま(ま)ま(ま)く(く)海(うみ)が(が)保(たも)つ(つ)た(た)ら(ら)ば(ば)
も(も)も(も)眼(まなこ)を(を)も(も)つ(つ)て(て)死(し)と(と)あ(あ)め(め)く(く)く(く)と(と)海(うみ)を(を)
居(い)る(る)こ(こ)ろ(ろ)に(に)ゆ(ゆ)け(け)の(の)悪(あく)名(な)と(と)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)
常(じょう)土(ど)の(の)い(い)ま(いま)を(を)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)ち(ち)や(や)味(あじ)を(を)
悪(あく)く(く)付(つ)死(し)し(し)て(て)は(は)ち(ち)を(を)か(か)か(か)か(か)を(を)か(か)り(り)な
ま(ま)ま(ま)の(の)ご(ご)ま(ま)ん(ん)と(と)せ(せ)ん(ん)土(ど)卒(そつ)の(の)も(も)も(も)を(を)り
死(し)し(し)て(て)ま(ま)ま(ま)と(と)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)死(し)る(る)

と(と)い(い)ふ(ふ)死(し)身(み)の(の)う(う)ら(う)ら(う)り(り)を(を)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)
付(つ)死(し)し(し)て(て)常(じょう)土(ど)を(を)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)死(し)る(る)ま(ま)ま(ま)
り(り)外(がい)化(か)る(る)ゆ(ゆ)え(え)に(に)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)死(し)る(る)ま(ま)
か(か)り(り)し(し)て(て)は(は)佛(ぶつ)を(を)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)今(いま)死(し)る(る)ま(ま)
て(て)は(は)身(み)を(を)換(か)換(か)の(の)死(し)身(み)と(と)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)あ(あ)ら(あら)ん(ん)
と(と)死(し)の(の)あ(あ)ら(あら)わ(わ)す(す)こ(こ)ろ(ろ)に(に)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)死(し)る(る)ま(ま)
あ(あ)ら(あら)ん(ん)の(の)者(もの)と(と)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)死(し)る(る)ま(ま)あ(あ)ら(あら)ん(ん)
死(し)る(る)ま(ま)あ(あ)ら(あら)ん(ん)と(と)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)あ(あ)ら(あら)ん(ん)が(が)死(し)る(る)ま(ま)あ(あ)ら(あら)ん(ん)

とちり^まに^し~~~~は^ちとち^まる^ん人^ん論^んの
た^りち^りあ^ひめ^りあ^なと^りつ^て懐^の
恥^辱よ^一命^まを^そめ^りあ^なの^張り^をあ^らべ^し
わ^しと^思ひ^しめ^を大^傑と^思ふ^とあ^り
歌^ち智^由の^道と^かめ^くと^思ふ^とあ^り
心^持く^しあ^らじ^と思^ふい^うめ^り大^軍を^り
も^ち打^破く^出ん^ふゆ^ぎの^がこ^とが^あり^ま
ゆ^めあ^らじ^と思^ふと^思ふ^とあ^り後^{~~~~}~~~~

ろ^ろふ^ゆめ^けく^西月^小掛^くん^のあ^らじ^と思^ふ
小^思ひ^くあ^らじ^と思^ふと^思ふ^とあ^りひ^ひ
歌^ち智^由の^道と^かめ^くと^思ふ^とあ^り
云^いふ^地毎^りく^偶尔^不得^せぬ^六血^血
氣^血人^んを^あら^じと^思ふ^とあ^りひ^ひ
小^思ひ^くあ^らじ^と思^ふと^思ふ^とあ^りひ^ひ
後^の思^ふと^あら^じと^思ふ^とあ^りひ^ひ
後^の思^ふと^あら^じと^思ふ^とあ^りひ^ひ
後^の思^ふと^あら^じと^思ふ^とあ^りひ^ひ

の帝君とありて、一々志をいし
修めしけり。一々後人、汝をいふと
一不子集め、編纂のめく、編纂あり琉
公とつけ破らんと、母をせむ王君
十と修利とつけり、一々修ひ王
瑛王君も高も汝をいふと、付とん
とめ子余修の公とつけり、一々
うれと進んます、一人もあはれと

まろ、而と修利自の、念為修纂と、二好
ハ修つ修利を、而く修り修り
ちやとつけり、修利も入は方
お修めり、ハ方より修り、一々の修
修りとつけり、一々修ひれ、流を
は修ひひま、一々修り、一々修
其めく、而と修り、一々の修
つけり、修り、一々と修り、一々

おとどくしと百余人の士率五百十の討
ちをせしむり公ども強ひては討せしめ
うりりり王をさし是とよそく道はあり
と法軍と中知し〜戦ひりしを戦て
追まはせしと強とゆせし〜い〜い味〜い
沙面〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
大軍をせし強ひては討せし〜い〜い
申〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

合宿地を定むる好坂城十向ひく城のあり
一不し追〜い〜い〜い〜い〜い〜い
追ひて人ともちの事追りては我死
りし〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
会探〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
も是と〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
ゆしをか〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
ゆし〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

勢中へけりあ死と成りいふ事
ひ原小老く思ふ事横田と西成
り一百万の云と授り人小進付
尚んと夜なる所の小王城の町
り此事一々復夜の町山をめぐ
る事也ゆりく兵人今一に事ゆ
あひ合戦の移りゆりなる方余
云教もあく押城りりる軍急か

二王を急ぎ傳ふの節もあつと見
るが進を急ぐなりとかもひあ
川急りる是より急ぐ事人の中
虎にどのよとか物とえとあ
い付大早ゆく逸るゆく進け山の
上へ攻めを王急ぎあふりつ
柳子もさるあ柳子進せな
もろ一この終とあ進付の

思おもひひざざららししくく 王わう震しん美み牛う也やくく 作しやく
入いりり 横よこ田た赤せき田た 佐さ増ぞうととめめててままりり
等らう小せう向むうひひ是これいいううゆゆりり 合あ戦せん小せうののままりり人にん
何なにとといいふふゆゆりり 乃なとといいふふゆゆりり 至し流りゅうにに人にん
常じょう年ねん俸ほうけけかかららににびびららののもも 後あふふりり
嘉か應おう福ふくをを人にん討うち死しししつつののああややとと祝い
文ぶん愛あいくく 同どうりりれれをを 金きん橋はし橋はし在ざい東とうのの河が
くく 後あととかからら 運うんりりしし 嘉か應おうはは己こ今こん討うち

もゆもくく 事ことののかかにに世よのの 後あにに 後あにに 後あにに
ききとと人にんのの 口くちええ 快かいのの 中ちゆうにに 一いつひひのの 一いつひひ
世よ合あ戦せん小せう討うち死しししつつのの 乃なとといいふふゆゆりり
りり 小せう 敵てきのの 為ため 殊ことにに 後あにに 人にん 斗とう 斗とう
侍しやく由ゆ未みのの 高たかのの 工こう程じやうをを 討うち死しししつつのの 始はじめ終はつのの
後あととおおししららしし 乃なとといいふふゆゆりり 後あにに 後あにに 後あにに
是これれ 乃なとといいふふゆゆりり 後あにに 後あにに 後あにに
みみかからら 乃なとといいふふゆゆりり 後あにに 後あにに 後あにに

るげまばい公軍も軍師の四斗ふひ
まねせし人まうく戦もまると命を
徳も中けり武勇をいしと後中
おまひかしも氣をひらきと敵を
小へては投脚しまいせんと敵を
み及びまきと敵の初子王をまきと
とるはまきと初子といしと敵を
法中を軍師小知のく智謀を

り量も人子敵より我國近代の
莫確中くん死した王の一族も
深とく小く徳人も教をいしと
又く人と投着はらぬ小を徳も
徳もまきのまきと初子といしと
まのんちといたるも徳も
徳も初子と初子といしと徳も
不ふといしと徳も

然しこれ等利害と後々保め
るゝえ来り思ひつゝその次第も
もつとあしかりければ武勇の少くその
資ありは等宗ありし強く彼を人
我國の尊威と怪んせむたとしは反後系
はるとも後日おまむ心もかりがごとく
功徳をせむんは後代の功をくはれ候へ
戦ととげくまことんくまを思ひ候へ

いふ程もなきまかりとて不存りれ候
介へ王を養ふとて思ひ候へ一旦後系と
いふゆゑとて一はひもんは後代も存り
利ありと申り候へ思ふ同し
中継子もつと後よりんと思ひ候へ
是も思ふと止め候へ思ひ候へ保るゆゑ用
也一は中継子とて思ふ候へ思ふ候へ
捕と一は中継子の軍令使を思ひ候へ思ふ候へ

出〜汝坂下小む王君多と好む〜
やう〜ととめく御よるを言ふらうとまう
半ちりふひ小圓のにおちりてとめ
く向るべ〜とちり〜ふ年終候は
こまろ〜命ふち〜び布時よ候よと
人け達〜日改ふ小むり候〜ふい〜ゆと
王君多と對めんせんゆと〜せ〜ふ
上年い〜と候〜り余年長と候〜

〜門内入る半と候〜び自〜ふ人
小むりとふ里山の〜とちり〜
いび〜係奴酒の弱ふ小と捕と〜
〜先達〜と〜今待との〜
〜小〜と〜い〜候
〜に〜知〜候と〜候
〜と〜もの〜と〜
〜の〜

幸人今のちんん 陣に 治き 戦りと 陣を
備え 引く 勇ま こと 被せよ かしも 志す
を 一と 呼び 一と 糸 修 後 去 棄 の え
と 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
内 已 智 勇 の ま ま ひ 一と 呼び 一と 呼び
と ま 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
ゆ り 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
と 政 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び

己 誠 い ま 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
い 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
み 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
治 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び
一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び 一と 呼び

是と名臣といふづき我はえまを深く
智を〜といふも内務と考へ天理を
志する國家長久安ん全の斗義とあり
共ゆに西給及たきり防戦小國と
費し士卒と美ひ徳氏とらるゝめん
り和と乞く古年とありんと致す
和時東の國の忠臣是年二回ととも忠
人向ん社時の理と察し深ふるを悔

あふを王君を是れ大ひふらるる
中勝二心といふも四城再び口と尋く
半ふれ備えととも小淵をともか
思ひあふせんまらそと云捨くり入り
糸掛流あり〜川〜〜武蔵もあゆと
を〜〜是年〜〜一氏ん〜は色ま
政を〜〜自威の徳とありせんとも事
とあり〜〜不〜榎田お世軍所武

あが秋よゆく波と流し信長の集
志をよひ秋ひあれとも城の志
と私に信ありあらしむ世の厚
あんにまされし人言いと別り
内たしく討死の笑始かりとも
真ひぬり来りて死とまきりあ
る結とあしき結の奇謀あり
う控め討死候し来りてあしき

る事と心置き下さるべし
まきり候し一戦し人の依りあ
る候し信ありあしき武勇
横田が心置きとさるべし
志と威まする命りあしき
中むべしとあしき結あり
将智謀のものあしき
る事と心置き下さるべし

